

堂々川；「活動テーマ「ホタルと花と砂留と」

2025（令和7）年6月30日 堂々川ホタル同好会情報紙 2025年度 第3号（創刊242号）

1. 6月定例会は6月22日24名参加で実施しました。
2. 5月27日 御野小学校にて土肥顧問の講演が開催されました
3. 6月18日 ホロコースト記念館より「アンネのバラ」の苗木二鉢 授与されました。
4. 今年のホタルは5月20日頃から6月20日過ぎまで光っていました。

5. 目で見える事例



ミーティング



花壇整備



花壇整備



草刈り



草刈り



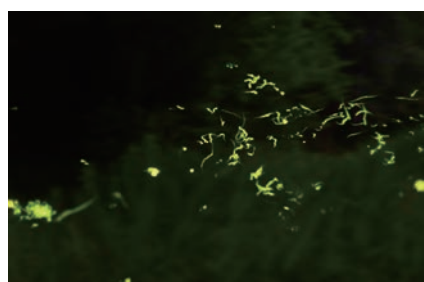
アンネのバラ授与式



アンネのバラの看板



土肥顧問の講演



ホタルの飛翔

6. 次回の定例会

7月27日（日）1番砂留駐車場に集合 8：00～10：30

作業内容：草刈り 整備と砂留の整備。ごみ拾い。 花壇整備。

7. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 砂田博史

「アンネの日記」の作者、ドイツ生まれのユダヤ人少女アンネ・フランクは、2年ヶ月のアムステルダムでの隠れ家生活の後、ナチスに捕らえられ、アウシュビツ強制収容所などに入れられました。1945年3月、アンネは15才9ヶ月の生涯を、ルゲン・ベルゼン強制収容所でチフスの病気のために終えました。家族の中でたゞ一人生き延び、アンネの無事を祈りながら帰りを待っていた父、オットー・フランクさんに、ベルギーの園芸家デルフォルヘさんから、アンネを偲んで「アンネ・フランクの形見」と名付けられた新種のバラが贈られました。オットーさんはそのバラをスイスの自宅の庭で育てていました。

1971年4月4日、ホロコースト記念館の大塚信館長が所属していた合唱団とオットー・フランクさんとの運命的な出会いがありました。その後、親交が深められ、1972年のクリスマスに、10株のバラの苗が贈られて来ました。それがアンネ・フランクの形見だったのです。その内、1株だけが京都で根づき、翌春、日本で初めて花を咲かせました。1975年、オットーさんから再び10株の苗木が届きました。それらは、現在、接ぎ木によって株が増やされ、アンネが願っていた平和を願うシンボルとして、日本各地で美しく咲き薫っています。

1995年6月、アンネやオットーさんの平和への願いを受け継いで、ホロコースト記念館が開館しました。2007年に建設された新館にはアンネのバラ園が造られ、約50株のアンネのバラが植えられています。オットーさんが心を込めて育て、日本に贈ってくださったアンネのバラは、40年の間、接ぎ木で増やされ、多くの人に愛され育てられてきました。ホロコースト記念館でも毎冬、子どもたちのボランティアグループ「Small Hands」が中心となって接ぎ木が行われ、増やした株を、アンネやホロコースト、平和について学びたいと願われる学校や団体に贈呈しています。2002年1月には20株のバラが、スイスのバーゼルにあるアンネ・フランク財団に贈呈され里帰りしました。

オットーさんから託された平和への思いのバトンが、いまアンネのバラを通して日本各地に、そして世界中に届いています。

ホロコースト記念館 Web ページ (https://hecipn.org/anne_rose.html) から転載



ご寄付頂いた 地域企業・団体・個人の皆様ありがとうございます

亀川病院、キングパーツ(株)、テラル(株)、こどもえんみどり、(株)御領精螺、しげまさ歯科、まが医院、
(有)ジャパン・ラム、(有)石宝、(有)中国美装サービス、(有)プランネットエンジニアリング、楊
貴妃、ゆうゆう神辺、ワンエイト(株)、(有)神辺ふかしな葬祭、(株)フカイ、御領郵便局、重政工
務店、松井製畳、(株)森山仏商、(株)MKK、坂本デニム(株) (敬称略 順不同)

個人名は記載しておりません。又、法人名の不掲載もごさいます。

ご支援ありがとうございます。ご寄付頂きました支援金は有効に且つ大切に使用させていただきます。

堂々川彼岸花基金の詳細はホームページに詳しく記載しています。ご覧下さい！！

堂々川ホテル同好会のホームページアドレスは dodogawa.com です。

